



今回は**骨粗鬆症**の原因について勉強してきましょう

骨粗鬆症はなぜおきる？

骨粗鬆症＝骨が減ってしまう。一度作られた骨が減ってしまう…?! なぜそんなことが起こってしまうのか勉強していきましょう。

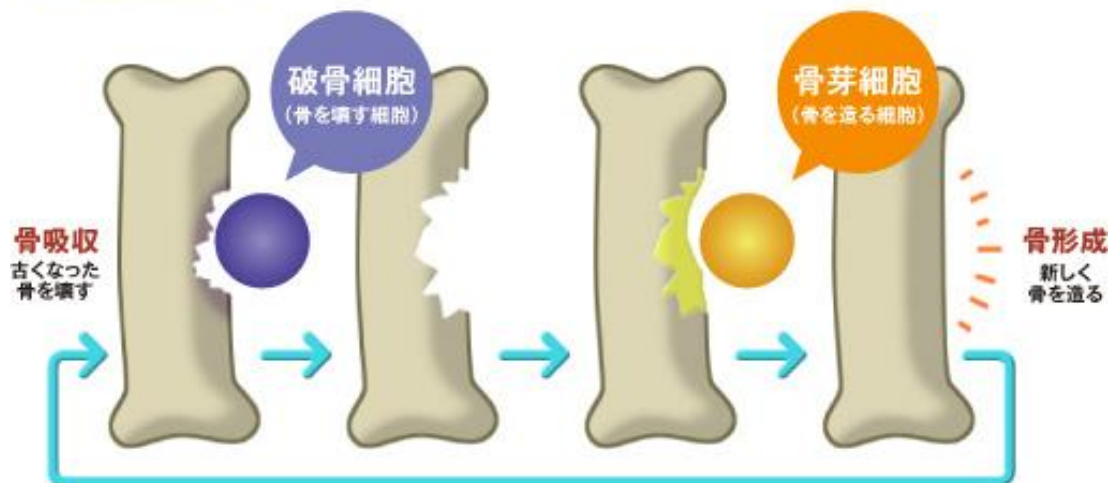
実は、骨というのは一度作られたらおしまいではなく、**古くなった骨を壊して新しい骨を造る**ということが常に繰り返されています。

この、**骨を壊す作用を「骨吸収」と言い、骨を壊す細胞を「破骨細胞」と**言います。そして**骨を造る作用を「骨形成」と言い、骨を造る細胞を「骨芽細胞」と**言います。

骨は、骨吸収と骨形成を繰り返すことによって新しく造り換えられ、その強さと健康を維持しています。

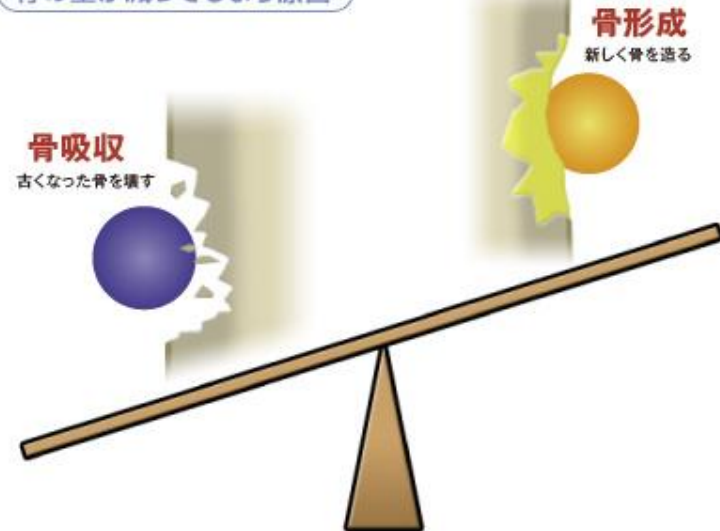
ところが、この**「骨吸収」と「骨形成」**のバランスが崩れて、骨を壊す「骨吸収」のスピードが、骨を造る「骨形成」よりも**速くなって**しまうと骨の量が減ってしまうのです。

骨代謝の仕組み



骨は骨吸収と骨形成によって、つねに造り換えられています

骨の量が減ってしまう原因



壊す速さが造る速さより速くなると骨量が減ってしまいます

なぜ骨粗鬆症になる？

骨粗鬆症の分類としては「**原発性骨粗鬆症**」と「**続発性骨粗鬆症**」の二つが存在します。それぞれの特徴についてみていきましょう。

原発性骨粗鬆症

その要因自体が原因



老化や閉経に伴う

年齢を重ねると、**性ホルモンの低下や、カルシウム、ビタミンD、ビタミンK**など、骨の形成に必要な栄養が不足し、その結果として骨吸収が進み、骨形成（骨をつくること）の機能が低下することによって、骨がもろくなるとみられています。

また閉経により**骨吸収**を抑える作用がある、**エストロゲンの分泌量が減り**、骨吸収を抑える力が弱くなり、骨吸収が増加してしまいます。そのため、閉経後の女性では特に骨がもろくなりやすいのです。

長年の生活習慣（**喫煙、アルコール・カフェインの多飲、日照不足**など）が原因となることから、生活習慣病との関連も重要と考えられています。

続発性骨粗鬆症

他の要因が原因



他の病気や
薬の副作用に伴う

特定の病気や、服用している薬が原因となって骨強度が低下する骨粗鬆症です。原因となる病気としては、副甲状腺機能亢進症などの**内分泌疾患、関節リウマチのほか、動脈硬化やCKD(慢性腎臓病)、COPD(慢性閉塞性肺疾患)、糖尿病**などの生活習慣病で頻度が高いとされています。これらの病気では、骨代謝に影響を及ぼすホルモンが不足したり、骨形成に必要な細胞などに異常が起こったりして骨量が減るものもありますが、骨の中に骨質を劣化させる物質が増えて骨がもろくなってしまうものもあります。

薬の副作用による骨粗鬆症では、代表的なものには**ステロイド薬の長期服用**があります。

有限会社 **せがわ薬局**

石川県七尾市鍛冶町50番地

TEL 53-0810 FAX 53-3557

<http://www.segawa-pharmacy.com/>

文責：林 美樹

